

## 四姑娘山・山の花旅 紙上写真展

今年も、四姑娘山自然保護区管理局顧問の大川健三氏の案内で、'わんりい'の有志たち、2組（河本隊/11名：2006年7月5日～13日、田井隊/14名：2006年7月25日～8月5日）が四姑娘山自然保護区を訪ねました。四姑娘山自然保護区をフィールドとして、素晴らしい写真を発表し続け、この地を知り尽くしている大川健三さんの心配りの行き届いた案内ならではの四姑娘山自然保護区の奥深くを訪ね、未だ手付かずのままの大自然素晴らしさを味わう感動の旅でした。大川健三氏には深くお礼申し上げたいと思います。

花、花、花…と、高山植物の種類は可憐な花から滅多に出会うことのない貴重種まで数え切れないほど。とても紙面では紹介しきれません。いずれどなたかがご自分のHPで紹介の労を取ってくださるのをお待ち下さい。というわけで、花々と四姑娘山の旅の様子をほんの一部を紙面で紹介します。

自然保護地区の中心には6250mの四姑娘山を主峰として、三姑娘山(5355m)、二姑娘山(5276m)、大姑娘山(5025m)の四姉妹の山が厳しくも神々しいばかりの威容で聳え、5000mを越える山々が周辺を取り囲んでいます。それらの山々が抱える氷河から流れ出る清冽な流れが谷となり、広がって大地を潤し、湿原となり、太古の昔からの変わらぬ姿で動植物をひそやかに育てて来ました。この静かで靈気の満ちた地域が、遂に世界自然遺産に指定を受けたとのこと。人は入りやすくなり、誰でも楽しめるように設備が整えられるようになるでしょう。けれど、何故か痛ましい気持ちがあるのはどうしてでしょうか。改めて、世界自然遺産のあり方を問いたいという気がします。

(田井)

### 河本隊：鍋庄坪／大海子／花海子／犀牛海子を巡る花の旅から



ユリ科 バイモ属  
(青木孝子氏撮影)

薬用植物 貝母(バイモ)。とても貴重な漢方薬(鎮咳・去痰)



青いポピーの群落(青木孝子氏撮影)



キク科 シンカラティウム属(渡邊規子氏撮影)  
明治時代の僧「川口慧海」にちなんで命名



コリダリス科 キケマン属  
(河本義宣氏撮影)

牧野の図鑑ではケシ科に分類されている。ムラサキケマンの仲間と思う。ブルーポピーに混じって紫に輝いているのがこの花



赤いポピーの群落(河本義宣氏撮影)



キンポウゲ科 オキシグラフィア属  
(戸田恵子氏撮影)



サクラソウ科 サクラソウ属 →  
(彦谷あい氏撮影)  
今回とても沢山のサクラソウの仲間を見ました。それも日本では見たことのないものばかり。この concina は極めつけ?!

大姑娘山登山組 (田井隊 14名の内6名が大姑娘山/5025 m登頂) (登山組の写真は葛谷孝司氏撮影です)

大姑娘山登山ベース 老牛園子 (関根茂子氏スケッチ)



いよいよ間近になる四姑娘山主峰の威容

遂に大姑娘山に登頂!



めざすはあの頂き



大姑娘山山頂からの眺め



大姑娘山山頂



大姑娘山登山中に見つけた綿毛でくるまれた不思議な植物

長坪溝散策組



5000mを超す高峰が長坪溝より直接突き上げ、これらの峰々が抱える氷河と万年雪から流れでる清冽な流れが谷を潤す (大川健三氏撮影)



抜群の眺めに思わずバンザイ! (大川健三氏撮影)



羊満台海子へは険しい山道を馬で行く (沖田辰夫氏撮影)



四姑娘山のベース・日隆から馬に乗って7時間、長坪溝最奥のキャンプ地から、更に急斜面を馬で4時間。標高約4600mにある羊満台海子。四姑娘山主峰や対岸の山々が映る。年間訪れる人は10名を越えないといわれる神秘の海子だ。(田井撮影)